



NPO法人 大阪環境カウンセラー協会
副理事長
CEAR登録 環境主任審査員
地球環境関西フォーラム 戦略部会委員
大阪産業大学、近畿大学、鳥取環境大学 講師
吉村 孝史 氏

荒川化学の「2013年度 環境・社会報告書」で大いに注目することは、この報告書がいつ出来上がり、いつ公表されるかということ。つまり、2013年6月の株主総会で、総会配布資料として扱われるということです。株主総会での配布となれば、従来より2ヵ月ほど早く実績資料を取りまとめなければならず、そのためには各部門の協力を得ることに大変な努力を要し、これはそう簡単にいくことではありません。環境関連資料の取りまとめは、環境担当部門にとっては最優先の仕事ですが、他の部門にとっては、まず自分の部門の年度ごとのまとめをし、それから環境部門の依頼の資料にとりかかります。従って、株主総会に関連する決算資料の作成が最優先となり、環境関連資料などの作成はその後となり、株主総会で「環境・社会報告書」を同時に配布することは、環境経営と表面的には発信してもなかなか大変なことです。

私はパナソニック在職時、環境経営の一つの目標として、株主総会での環境報告書の配布を目指し、実現させた経験があります。これは、環境を経営として重要視している、当時の中村社長の決断によるものでした。1年間の経営成果を発表する株主総会での「環境・社会報告書」の配布は、まさに企業として環境経営を実践している一つの姿を世の中に示していることとなります。2013年度株主総会での「環境・社会報告書」の配布という経営トップの決断に敬意を表します。

そして、谷奥社長のトップメッセージでも「事業を通じて環境面に貢献し、世界のお役に立つ企業を目指して本気で取り組んでいきます。」としめくくっておられます。環境経営に対する経営トップの決意と実践が、まさに如実に感じられます。

また、化学工場での事故が散発している中で、2013年1月23日の大阪工場の発煙トラブルについて、大事にいたりませんでした。この事故発生を「環境・社会報告書」で公表していること、および水島工場での高圧ガス認定は大いに評価できます。

さらに、新たに作られたビジョン「つなぐを化学する」の中で社会の皆様とのつながりを大切にしていこうとされていますが、「関西歌舞伎を愛する会」への参加や「大井川源流域森林再生協議会」への協賛などはユニークな事例として評価できます。

さて、当レポートの報告内容について提案したいことは製品の環境配慮についての扱いです。

トップメッセージでは「製品の供給を通して、世界での貢献を追及していきます。」と強く述べられていますが、その割には特集などでの扱いが弱いと感じます。これまでは特集で製品をよく取り上げてきたので、今年は別の項目にしたのかもしれませんが。しかし、実際に「環境・社会報告書」を見る一般の人は今年度版しか見ず、これまでのことはわかりません。荒川化学がものづくりのメーカーである以上、製品は「会社の顔」です。

さらに、トップメッセージでは「当社の製品は社会のいたるところで用いられている一方で一般の方からは顔が見えにくいと指摘されています。あらゆる機会を通して、製品の特徴をよりわかりやすく伝えていく必要があります。」とされています。「環境・社会報告書」がその存在感を高めてきているだけに、製品の環境配慮は常に重要に取り扱うことが肝要です。

第三者意見を受けて

吉村様には2010年から第三者意見の執筆をお願いしており、今回も貴重なご意見、ご指摘をいただき、ありがとうございました。

本年はこの環境・社会報告書の発行を、重要なステークホルダーである株主の皆様への荒川化学の姿をリアルタイムでお伝えしたいという思いから、6月に開催される株主総会にお配りできるよう、約2ヵ月早めました。データの収集、記事の取りまとめなど、編集期間に余裕がなくなるため、内容的に十分作り込めるか危惧もしましたが、発行の努力をご評価いただいたことは、大いに励みとなりました。

特集に「設備の安全性向上のために」、「人材育成のために」として、安全、保安の取り組みを取り上げましたが、この方針を決めた直後に大阪工場で発煙事故が発生しました。このところ化学工場で重大な事故が相次ぎ、社会的に安全、保安への関心が高まる中、当社としましては真摯な気持ちで再発防止に取り組んでいることをご理解いただくため、敢えて事故について掲載することを決断しました。

また、製品の環境配慮に関しての扱いが弱いとのことご指摘を

いただきました。当社の主要原料であり、アイデンティティーでもあるロジンは、天然由来の地球にやさしい素材であり、幅広い用途でご愛用いただいているとともに、より機能を高めて新たな用途へ展開すべく開発を進めております。これらの具体的な成果につきまして、より多くの方に知っていただくために、今後の紙面づくりを工夫していきます。

第3次中期経営計画のスタートにあたり、見直しました新たなビジョン「つなぐを化学する」を胸に、さまざまな活動を通して社会の皆様とのつながりを大切にしていきます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。



荒川化学工業株式会社
常務取締役
経営企画室長
環境保安担当
宇根 高司